

にいつ丘陵里山保全活用基本計画

新潟市は、市町村合併により信濃川、阿賀野川、佐潟、鳥屋野潟に加え、福島潟、にいつ丘陵、角田山、多宝山等、豊かな自然環境を有したところであります。

その中で、古くから人々の生活と深くかかわりを持ってきた「にいつ丘陵」の里山について、良好な自然環境を保全するとともに、その利活用を図るため、基本計画を平成17年度に策定しました。

< 概要版1頁 >

にいつ丘陵 = 新潟市民の共有財産 環境林・保健休養林 対象エリア = にいつ丘陵のうち新潟市域(約1千ha)
--

- 計画のポイント -

< 概要版1～2頁 >

- 1 美しい「里山」の景観の保全や再生を図る。
- 2 健康増進やリフレッシュできる場所としての整備を目指す。
- 3 様々な活動を通じた体験型の学びの場として活用を図る。
- 4 観光やレクリエーションの場として、楽しめる空間づくりを目指す。
- 5 市内・外の交流の場として整備・活用を図る。

- 基本理念 -

里山としての環境を整備・保全することを第一とし、積極的に人が里山に入り利活用することを目指しております。

< 概要版12頁 >

** キーワード **

「永く人と関わりをもてる森」 ・人が育てる森の整備 ・森を育てる人の育成 「森の図書館」 ・里山資源の調査、情報の集積 整理 発信 「バイオフィールド」 ・森林と健康に関する調査・研究、産・学・官の連携

- 整備計画 -

< 概要版17～18頁 >

- | | |
|------------|----------------------|
| * 里山再生整備 | 用地取得、水辺・林地の整備 |
| * 拠点施設整備 | ビジターセンター整備、案内板整備 |
| * 体験施設整備 | 遊歩道の整備、炭焼き・木工体験施設の整備 |
| * 既存公園等の整備 | 石油文化遺産、石油の里公園 |

- 実現に向けた方針 -

< 概要版19～24頁 >

- * 土砂採取を抑制するエリア、貴重な動植物が生息しているエリア、里山の管理活動が活発で積極的に利活用しているエリア等に整理して、「保全エリア」と「利活用エリア」の公有地化(用地取得)を目指します。
- * 既存施設の維持管理については、NPOの方々や市民団体等との協働や指定管理者制度の導入を検討していきます。